

新しい悦びの時代へ向けて



NPO法人

くだけけ代表

和田重良

1948年小田原市生まれ
くだけけ生活舎での共同生活（人
生科や農作業）をとおして、青少
年や家庭の生活にさまざまなメッ
セージを送っている。

人生においても、教育を考えるためにも、一人一人にとって「今をどう生きるか」が大切なことであることは言うまでもありません。

過去を悔んで、また未来を憂いてばかりでは新しい時代を生み出せません。今日からイキイキと生きましょう。何歳からでも…。

第九回 文明（便利）の中で生きる注意点

よくよく考えてみると、人類が一度も体験した事のない、ものすごい時代にほくらは突入しその中で生きていくのです。ビックリするようなスピードと便利さの中で生きていくのです。

理想的な便利を求めているうちに人類はものすごいモノを手に入れたら、あっという間に実現してしまふ技術や方法を得て、日に日に進歩して、ほくらのような老人の入口に立つ者にとってとはとてもついていけないと思うのです。

ほくの三代前は江戸時代の人

「人間」の進歩の歴史はいつから始まっている

のかはあまり詳しくは知りませんが、少なくとも最近の二、三百年の文明の進歩はものすごいスピードです。旧石器時代からずっと「人間」の進歩をたどってみると、段々と次の新しい時代に進んで行く時間が短くなっていきます。要するに「進歩」に要する時間が少なくなって来たということです。

これって、考えようによっては「滅びのスピードが加速している」と言えるのではないのでしょうか。何がどのように「滅び」て行くのかは、具体的にほくらが予想するよりはるかにあつけ無いものだと思います。

ほくの三代前の先祖はナント江戸時代の人です。一代前が明治の終り頃の生まれ、二代前が明治の初め頃の生まれの人ですから、その先代は江戸時代の生まれです。その人とほくらの生活の違いはビックリするほどの差があります。鉄道ができた、車が走ったり、高速道路ができ、一人一人が電話を持つて歩いていて、空を飛んだり、その他諸々の便利はわずかこの三、四代の間にできたものばかりです。

江戸時代の人が今の様子を見たらぶつたまげてるでしょうね。

学校なんてものも今のようにはできていません。「教育」という考え方もあったかどうか分かりません。そんな何もしなかった人たちの「人間のしあわせ」観はきっと今のものとは大きく違っていたのです。「人間」を見る目も大きく違ったのでしよう。

便利になったのに時間が足りない？

便利さ

の中で、時間が足りないのはなぜなのでしょう。ほくより三代前の人達は（奈良に住んでいましたから）きっと江戸まで出て来たこともなかったでしょうけど、二代前のじいさんはアメリカまで船で渡っているし、東京に出て来て「学校の先生をしながら「研究」をしたりして「ワジャセわしい」が口グセだったようですから、その時代には心の中が忙しい人がいたのです。

一代前のじいさんはヒマ人でしたからあまり「忙しい」とは言いませんでしたが、新幹線や飛行機で移動することもあり、けっこうアチコチを車で移動していました。（運転は若い人がして）ですから、

時間というものには追いかけていたのでしょうか。ほくらもこの六十数年の間に色々な「便利さ」に縛られるようになったと感じています。最近（何年も前からですが）どこに居てもケータイ電話がかかって来たり、講演中にもメールが入って来たりして落ち着いて話してるところに邪魔が入ったりするのです。

最近の若者や子どもたちの心の余裕のなさほくらよりもっともっと進行しています。寝る間もなく忙しさに心を奪われているようなのです。

心のセルフコントロール

子どもたちの「スマホ中毒」についての対応策がアレコレ

言われていますが、「そんな甘いこと言ったってしょうがないじゃん」と言うことや「そんなこと強制しただってムダでしょ」と言いまくるようなことばかりです。

そもそも、人間の精神活動には「欲望」と「こころ

が密接に関係しているのですから、そのカラクリをキチンと捉えていく必要があるのです。

「くだけけ会」で勉強して下さっている人たちはその辺りは十分承知して下さっているのですが、文明（便利さ）の中で生きていくのには、便利さに振り回されてしまわないで「自分」を見失わないように注意しなければなりません。

そこで最も重要なのが「こころのセルフコントロール」です。そこで自分をコントロールできなくなると、「便利依存」で自分をコントロールできなくなると、頭をどこか暗闇につつまんだまま抜け出せなくなるとの危険な状態です。一つの方法としてほくらは「キチンと坐る」ということをしたり、「一つ一ついいねい」ということを実行しています。

「しつけ」と言うような表面的な意味ではなくて、文明（便利さ）で損なわれそうな「人間」の大切なこころの中身のためです。

最後に一つだけ付け加えると「途中を探る」「原点を探る」という視点がこの文明の中では絶対に大切です。このことはまたいつか書きます。

